

世帯と人口

(9月1日現在)

世帯	43,901	(+ 85)
人口	118,987人	(+103)
男	60,791人	(+ 64)
女	58,196人	(+ 39)

この数値は平成12年国勢調査人口を基に異動人口を加算し集計したものです

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

かかしは子どもたちにも大人気



えびな模様…中新田から

成長するかかしの郷

今年で第9回を数えた「中新田かかしまつり」(9月14日、30日)。黄金色の稲穂に沿ってずらりと並ぶかかしの前を、家族連れなどがあれこれ品定めしながらそぞろ歩く光景は、秋の風物詩として定着しています。実行委員長を務めた吉川秀男さん(65歳)は「かかしの集まり具合が一番気がかり」だったそうですが、例年とほぼ同数の50点の応募があり、表彰式や芋煮会も盛況でした。

今こそ地域で人づきあいを

吉川さんが幼いころの中新田は、あたり一面田んぼでした。冬場は、めったに自動車の通らない路上でこま回し。夏は毎日相模川で泳いだり、用水路でドジョウやフナ捕りに興じました。時には獲物が夕食の食卓に上ることもあったそうです。あのころは大きい子から小さい子まで一緒に遊ぶのが普通だった。その中で自然と人付き合いのルールを覚えていったんだろうな」と当時を懐かしみます。

またこの地域は、昔から教育熱心で知られています。明治19年、中新田村に啓蒙小学校(後の尋常啓蒙小学校)が誕生した当時は、校舎の建設・維持、教員の給料など、経費のほとんどを村民の寄付金で賄わなければならぬ時代でした。この中で、村単独で学校を開設させたことは、財政的に厳しくても、子どもには学問を修めたいという教育意識の高さと、住民の結束の強さを表しています。

時とともに少なくなつた地域の交流。「中新田も例外ではありません。かかしまつりが親ほくを深める機会の一つになれば」と吉川さん。実行委員会では、「出品したいが、作る場所や材料がない」との声にこたえて、去年から農家の物置スペースを開放し、かかしづくり教室を開いています。会場と材料のワラを提供した実行委員の平井俊一さん(65歳)は、「一番楽しいのは、家族や友達同士が和気あいあいとかかしづくりに励む姿を見ているときです。今こそ地域の中で、人との付き合い方を肌で知ることが必要」と、現代社会に欠けている「ふれあい」の大切さを強調します。

始まりのきっかけは「まつりで人が集まって、そこで地元の野菜も売れたらいいじゃないか」と生産組合の旅行中の一言。何気ないアイデアで生まれた中新田のかかしまつりは、多くの人たちの努力で成長し、毎年「ふれあいを大切に」する中新田を見つめています。

中新田 アラカルト

*人口(9月1日現在) 86,488人(男46,233人・女40,255人)
 *世帯 35,999世帯
 *面積 2.18平方キロメートル(市全面積 26.48平方キロメートル)
 *地名の由来
 中世に「海老名郷」と呼ばれた地域の北側(上郷、河原口あたり)と南側(門沢橋あたり)の中間に新しく開拓された田、という説が有力。